

第2回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日時 令和元年5月9日(木) 17時30分～19時30分
会場 武蔵野市役所811会議室
出席者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、嶋田晶子委員、助友裕子委員、
白田紀子委員、花田吉隆委員、牧野篤委員○、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、
福島文昭委員
◎委員長、◎副委員長

資料 資料1 「生涯学習」の定義について
資料2 生涯学習フォーラム(仮称)について
資料3 生涯学習計画策定委員会スケジュール(令和元年5月9日版)
資料4 策定委員会傍聴要綱

次 第

1 牧野副委員長による講話

牧野副委員長から「社会基盤としての社会教育・生涯学習」について講話をいただいた。

2 第1回委員会、懇談会、講話を踏まえた意見交換

事務局より、資料1を用いて意見交換に際し「生涯学習の範囲」について議論いただきたい旨の説明を行い、次の通り論点を示した。

- ・自己学習活動や偶発的学習を今回の計画に含むか、含まないか。
- ・含む場合、これに関して行政に期待される役割とは何か。

委員長 第1回委員会や教育委員会との懇談会、牧野副委員長の講話を踏まえて意見交換を行いたい。

委員 講話について確認したいのだが、子どもが自己肯定感や言語能力を高めて生き抜く力を磨くことの重要性と、学校教育だけでなく社会教育に広げていくことの重要性は、どのように関係していると考えるか。このような地力を育むためには、学校教育だけでは難しいので、社会全体で取り組むべきだという意見なのか。

委員 学校で教員が知識を伝達することは大事だが、その知識を使って探究したり、新しい価値を生み出したりすることが必要になってきている。そのためにアクティブラーニングが教員に求められているところだが、社会の中で自分を位置づけていくためには、社会でも子どもの学びを引き受け、生き抜く力を育むべきだという考え方に至っている。つまり、地域と学校は協働関係を結ぶ必要があり、子どものために総がかりでやってもらいたいということである。ただ、地域の概念が壊れているので、どこを地域と捉

- えればよいのかは検討しなければいけない。
- 委員 今回の生涯学習計画の目的も、今のような考え方に基づいた方がよいということなのか。
- 委員 武蔵野市の事情があるとは思いますが、町内会がない環境で各人が生き、地域でつながりもあるということであれば無理に話を寄せることはないと思う。ただ、子どもを社会全体で育てていくという考え方があるということは論点である。また、高齢者と子どもの関わりも重要である。子どもだけでなく、みんなが生き抜く力を高め、主役になるということが目指されていると思うので、検討していきたいところである。
- 委員長 学校教育では生きる力に着目してカリキュラムが組まれているが、学校関係の委員はいかがか。
- 委員 総合的な学習の時間が導入されて時間が経つ。その中で、子どもたちが何かを探求する際の地域との関わりが重要であると認識されてきており、地域の人々やコーディネーターの方たちと取り組むことも多い。新しい学習指導要領も同様の認識である。深い学びに至るには、学校だけでなく、社会に関かれ、地域とつながっていることが大事だと思う。
- 委員長 生きる力の内容が議論されているのかが気になっている。社会に適用する力なのか、それとも個人の能力をつけることなのか。学校教育ではどのように考えているのか。
- 委員 どちらもあるものとして議論されている。個人の基盤をつくることは大事で、社会を生き抜いていく上で必要なことだろう。小学校は基盤をつくるのが特に大事であり、義務教育の務めだと思う。
- 委員 議論されている内容はその通りだと思う。ただ、現実的には子どもは放課後には塾に行き、夜遅くまで勉強をしている。その中で、社会においてどのように学ぶというのか。
- 委員 現行計画では高齢者向けの事業に認知症サポーター講座が位置づけられているが、小・中学校でも講座が開催されている。その中で子どもたちは、高齢者を大事にしようというだけでなく、他者に対する優しさや思いやりを持って行動することを学んでいると思う。
- 委員長 学歴社会そのものを改革しなければいけないのかもしれない。ともあれ、生涯学習の範囲に話を戻したいが、いかがか。
- 委員 論点に挙げられた自己学習活動と偶発的学習は含めておいた方がよいだろう。そのためのきっかけづくりを計画に含めておくことで、自分の関心を高める機会をつくることになり、各人のニーズに寄り添えるのではないか。
- 委員 その論点については自分も同様の意見である。現在の計画を見返してみると、基本理念に5つのことが示されている。その1つ目には、「学習目的を共有する人々の活動を活性化する」と書かれている。ここでいう「活動」

はグループ活動を想定しているのだろう。これまでの意見を踏まえると「ともに学ぶ」ことは確かに大事だとは思いますが、牧野副委員の講話にて「生き延びること」や「楽しむこと」がキーワードになっていたことを踏まえると、まずは「個人として学ぶ」ことが大事なのではないか。そう考えると、自己学習活動等は範囲に含めておいた方がよいと思う。

また、基本理念の1つ目には「市民の生涯学習に対するイメージ」という言葉が使われている。イメージは人それぞれだと思うが、アンケート調査結果では、割合としては多くはないが、「働く上での知識・技能を身につける」が1割程度であった。過去1年間で学んだ理由を見ると、働いている人においてはキャリアアップのために学んだ人が最も多い。生涯学習は、シニア層を対象としてしまいがちで、現役世代を対象にしたものは少ない。「生き延びるため」に引きつけることはよろしくないかもしれないが、現役世代の学び直しを見落とさないためにも自己学習活動等も含めておいた方がよいと思う。

委員長 現在の計画を引き継ぐ部分と新たに加える部分に関する意見になると思うが、いかがか。

委員 心理学ではE. H. エリクソンがライフサイクルという理論を用いて生涯を通じた心理・社会的発達段階を定義した。この理論は、青年期の「自我同一性」の獲得の側面、つまり、社会における自分のありように関する側面が強調されているが、そのサイクル、つまり循環という考え方には人間が成長して行く過程で次の世代を育て上げるという意味が含まれている。長寿化していく社会においては、親子間だけでなく、三世代間のサイクルを検討する必要があるのではないか。そこでは高齢者が子どもの教育に参画することになるが、そこで伝える内容は新しい知識ではなく、人との付き合い方など人生の経験なのだと思う。

委員長 現在の計画は平成21年頃に議論されたのだと思うが、それ以降の社会の変化をどのように捉えるかということも考えるべきだろう。また、経済の停滞と格差の発生についても踏まえるべきだろう。

委員 行政が提供する生涯学習の機会だけを計画の対象とするのか、それともそれ以外の機会も含めて計画の対象とするのか。どのような枠組みで生涯学習計画をつくるのかを考えるべきだろう。

委員長 生涯学習分野にはどの程度の予算がついているのか。また一般予算として位置づけているのか。それとも教育委員会の予算なのか。

事務局 生涯学習スポーツ課で行っている事業については教育費として計上しており、ここ数年は一定の金額で推移している。ただ、学習機会の提供は教育委員会以外でも行っており、その事業はそれ以外の費目で予算が充てられてる。

委員 主な生涯学習事業をまとめた資料の中に高齢者支援課の事業が位置づけ

られているが、この事業は福祉分野の予算で行われている。生涯学習は行政の様々な分野で行われている。生涯学習計画は、そのような事業も網羅的に取り扱ってきた。ただ、今回の計画において取り上げるべき内容は何かということも議論していきたいところである。

委員長 現在の計画はよくできていると思うが、どの程度実現されてきているのかは気になる場所である。新しい計画に対する実現に向けて、この委員会で予算的なことを考えることはできるのか。

委員 現状、福祉関係の予算が増えてきている。その中で、予算を確保しようとするよりも、事業のやり方を考える必要があると思う。

委員 生涯学習の機会提供はコミュニティ協議会でも長年取り組んできているが、生涯学習計画には位置づけられていない。コミュニティセンターの取り組みは武蔵野市独自の市民活動だと思うので、新しい計画ではしっかりと位置付けていきたい。そのような状況では社会教育団体であればメリットを享受できるが、一般の市民はメリットがあるとは思えないのだろう。市民に対するメリットを提示した方がよいのではないか。

委員 メリットを提示すべきという意見には賛同するところである。牧野副委員長の講話の中で、ゆるやかなつながりがあるという話があったが、コミュニティ構想もそのような考え方があったと認識している。コミュニティの中で生涯学習が営まれれば、コミュニティの広がりにつながっていくと思うし、先ほどの講話にあった「はざま」を埋めることにも展開していくと思う。

委員 議論を伺っていると生涯学習の範疇はかなり広いと感じる。計画において行政が行うことを位置づけることは大事だと思うが、市が外部と協働していることに焦点を当てるのが大事なのではないか。予算の使い方も、協働の触媒になることに使うべきなのだろう。

委員 牧野副委員長の講話の中で印象に残ったのは、「ぼやっとつながる」ということだ。サービスしすぎると依存してしまい、自立できなくなる。ぼやっとした中で、自立できるということが大事なのだろうと思った。

委員 市民は生涯学習ということを意識せずに講座に参加していると思う。その中であまり格式張って考えてしまうと、参加しにくくなるのではないか。生涯学習を意識しないまま参加できて、さらに地域へとつながっていくことがよいのだと思う。仰々しくなってしまう方がよい。講座への参加や人とつながることを逡巡するような人でも参加できるような機会のあり方がよいと思う。その方が、社会的なつながりがなくなってしまった人をすくい上げることができるのではないかと思う。

委員 アメリカの大学教員と協働で健康教育について研究をしているのだが、その教員は日本の行政サービスが充実していると驚いていた。ただ、アメリカの行政では、自前のサービスこそ充実してはいないが、民間サービスを

熟知しており、斡旋しているようだ。日本の行政も民間サービスをもっと把握した方がよいと思う。ただ、そのようなサービスを受けない人は行政がサポートしなければならない。そうすると生涯学習の範疇はとても広いと感じているところだ。

委員 武蔵野市での生活が好きだと思い、その思いを持って人とつながれることが大事だと思う。そうすることで社会に対する信頼感や自己肯定感が高まっていくと思う。無理に促すのではなく、まちや暮らしが好きだと思えることが大事だと思う。

委員長 生涯学習の定義については、この委員会でも考えて続けることが大事なのだろう。

3 生涯学習フォーラム（仮称）について

資料2を用いて、パブリックコメント募集時にあわせて行う生涯学習フォーラム（仮称）について説明し、次の論点を示した。

- ・スイングホールのような公共施設での講演形式とするか、広く一般に向けて公開できるような形式がよいか。

委員長 場所をどこにするのかということと、一人の識者による講演のような格式のある会がよいか、もっと柔らかい会の方がよいのかという論点だと思うが、いかがか。

委員 何のために行うものなのかを考えるべきである。目的としては計画を周知するということなのだと思うが、講話の中でゆるやかなつながりというような話もあったので、格式張った会よりも柔らかい感じの方がよいと思う。

委員 具体的な内容は今後検討していくとして、柔らかい感じにするということではよいと思う。

4 事務局からの連絡

資料3を用いて次回開催日時について説明を行った。また、傍聴の要綱についても説明を行った。

以上